



おまた いっぺい  
小俣 一平

東京都市大学メディア情報学部  
社会メディア学科教授  
(博士・公共経営：早稲田大学)

主な講演演題＝「特捜検察－栄枯盛衰物語」「新聞・テレビはなぜ信頼を失ったか」「冤罪事件はなぜ起こるのか－予め準備された冤罪『菅生事件』」「最良と嫉妬」「人はなぜ裏切るのか」など。

1952年生まれ、大分県杵築市出身。1976年東京経済大学卒業。同年NHK入局。鹿児島局・社会部記者、司法キャップ、社会部担当部長、NHKスペシャル・エグゼクティブ・プロデューサー、放送文化研究所研究主幹などを経て2010年4月より現職。この間2007年早稲田大学大学院修士課程修了、2010年同博士後期課程修了。専門はジャーナリズム論、メディア論、放送文化論ほか。

東京経済大学大学院コミュニケーション学研究科、早稲田大学大学院政治学研究科、青山学院大学各兼任講師。

2011年11月より出版社「弓立社（ゆだちしゃ）」の代表取締役社長、一般社団法人「ゆかり協会」理事でもある。

著書に「新聞・テレビは信頼を取り戻せるか」（平凡社新書）、「調査報道がジャーナリズムを変える」（花伝社・共著）またノンフィクション作家（ペンネーム坂上遼）として主な著作に「消えた警官 ドキュメント菅生事件」「ロッキード秘録 吉永祐介と四十七人の特捜検事たち」（いずれも講談社）「無念はカー伝説のルポライター児玉隆也の38年」（情報センター出版局）、「浅川マキーちょっと長い関係のブルース」（有楽出版社）などがある。記者時代から「文藝春秋」「世界」（岩波書店）「現代」（講談社）などの総合雑誌に筆名で執筆多数。

現在、東京新聞「新聞を読んで」のコラムを担当。

NHK記者生活のほとんどを社会部で過ごし、特に特捜事件を得意分野としてきた。NHKスペシャルでは、山口組の実態に迫った「企業舎弟一閥の暴力」やETV特集「東京地検特捜部～利権あるところ犯罪あり」「東京学生寮物語－和敬塾の青春」などを制作してきた。

(2013年2月現在)